



第 23 号

1992年 8 月 1 日 発行

豊中・サンマテオ
姉妹都市協会

事務局 豊中市人権文化部
文化課国際交流係

858-2651



THE 20TH ANNUAL ENGLISH SPEECH CONTEST



THE 20TH ANNUAL ENGLISH SPEECH CONTEST

第20回
高校英語弁論大会
優勝 同志社女子高校 矢守愛子さん
準優勝 豊中高校 金哲学さん



矢守愛子さん



金哲学さん

豊中・サンマテオ姉妹都市協会が主催の第20回高校英語弁論大会は、1月25日(土)午後2時から市立中央公民館で開催されました。今年は、市内外の高校7校から20人(女子16人、男子4人)が参加し、早くからの練習、熱気の中で弁論が行われました。

優勝は、同志社女子高校2年生の矢守愛子さん、準優勝は豊中高校2年生の金哲学さんでした。

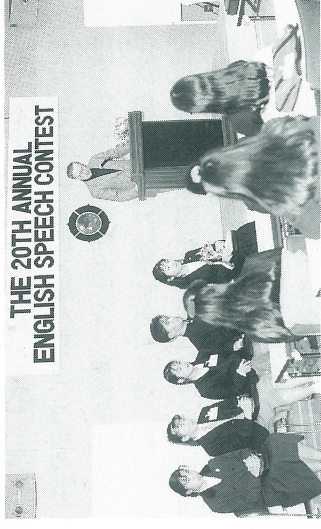
入賞者は次の皆さんです

(敬称略)

順位	氏名	学校名	学年
優勝	矢守 愛子	同志社女子高校	2年
準優勝	金 哲学	豊中高校	2年
3位	山吹 道枝	東豊中高校	2年
4位	森重 由美	聖母被昇天学院高校	2年

優勝した矢守さんは「生命をみつめる」を演題に、父の健康を案じて検査結果が出るまでの3週間、家族皆さんが父への思いやりにあふれた一日一日のことを語りました。「生命をみつめる」という、生命の大切さについて深く考えさせられる一冊の本との出会いを通して、生きることの大切さを気づかされたこと。そして、本当に大切なのは、どれだけ長く生きるかということではなく、どのように生きるかということではないか。自分の人生をふり返った時に、「すばらしい人生だった」といえるように、精一杯生きていきたい。と訴えて弁論を展開しました。

また、準優勝の金さんは「祖田」と題して、痴呆症になった祖田の介護をとあして、さまざまな問題にあたつていくこと、徘徊、トイ



しそして言葉などの問題。祖田は戦前に日本にきて、これまで日本語をよく話していたが、病気になつてからはほとんど朝鮮語しか話さなくなつたこと。痴呆性老人をもつ家族の問題を、長寿国日本の問題として提起しています。

「この問題を自分自身のもつすべきです」と訴え、厳しい差別の中を生き抜いてきた、祖田への愛情を雄弁に展開しました。

審査員は、金蘭短期大学教授のデービット・ポールドロウインさん、甲南大学講師のジエーン・ホルカーさん、姉妹都市協会常任理事の河合隆子さん、三島高校校長の宮城弘善さん、大阪府教育委員会嘱託(外国人児童担当)の住吉保男さんの5人。高校生の熱心な弁論の後、発音やテーマの内容などが厳正に審査され、成績が発表されました。

審査員を代表してポールドロウインさんが、「今年で20年目になるが、10年前に比べて内容と英語のレベルが比べものにならないくらい上達した。皆さんのスピーチは自分の主張と経験したことに基づいている。そして、皆さんの英語が素晴らしいので内容によって入賞者が決まった。今日もユーモアのあるスピーチに観客の笑い声があつたのは、スピーチにも張り合いがある。スピーチが楽しく聞けるので、これからもユーモアのセンスをいれてください。」と講評しました。

優勝された矢守さんと準優勝の金さんは、今年8月16日から24日まで1週間の予定で、姉妹都市のサンマテオ市に親善使節として派遣されます。サンマテオ市では市民の家庭にホームステイしながら、市への表敬訪問やさまざまな体験交流をすることになっています。

第19回高校英語弁論大会に優勝した澤藤美代子さん（梅花高校2年生）と、準優勝の寺嶋素子さん（梅花高校2年生）の二人が、副賞として昨年8月に姉妹都市サンマテオ市へ派遣されました。二人はアメリカでの一週間をホームステイしながら、市への表敬や日本庭園25周年記念式典への参加、また市民交流などに高校生親善使節の役割を果たしました。

家族の一人として

澤藤美代子さん

私は、サンマテオ市ですごした一週間、いろいろな事を考えさせられました。その中でも一番私が感心したのは、彼等の気配りです。

日本人ほど神経質で、他人に気をつかう人間はいないだろうと思っていた私は、気をつかっている人と他人にはまったく気づかせない、アメリカ人のことまかい気配りにまぎびつくりさせられました。はるばる日本からやってきたんだから、思いやり楽しんでいい思い出をつくってほしいという気持ち。むしろ、気を遣い過ぎる日本人とは、気配りの仕方がまぎびつくり感を感じました。

そして、もう一つ感心したのは、アメリカ人家庭において、子どもは強い責任感を持っていて自己管理ができるということでした。親は子どもを信用し、ひとりの人間としてみている、子どもは子どもなりに自分のポリシー一みたいなものを

持っている。親に頼らず自分で決断し自己管理ができるのは、親が自分を信用してくれているという、信頼関係があるからだと思っておりますが、精神的に自立するということは、今の日本の子どもにとつて大きな課題になるんじゃないでしょうか。大学の学費は自分でアルバイトして払うという考えかたは、見習わなければならぬと思います。

お客としてではなく、家族の一人として私を迎えてくれたDARLEYさんとMAHERさん、そして何よりも貴重な体験を与えてくださった方々に心から感謝しています。



スケールの大きさに感激

寺嶋素子さん

私にとってサンマテオでの多くの体験は一生忘れられない最高のものでした。

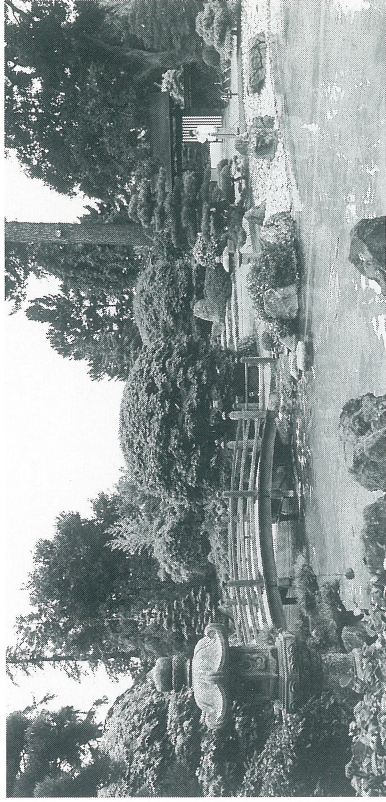
8月21日、サンフランシスコに到着すると、まず太陽の眩しさに驚きました。今回の渡米が初めてではなかった

ため、幾分リラックスしていたものの、ステイ先を知らないまま日本を出た私は、大きな期待と少しばかりの不安を抱いていました。でも、抜けるように青い空とホストファミリーの顔を見た瞬間、不安はふっとんでしまいました。ホストファミリーのボブ、ジュー、ケブ、アイン、アネットは素晴らしい家族でした。私は家に入った瞬間、彼らの家庭のあたたかさを感じ、この家族の一員になれたことを嬉しく思いました。私たちが着いたその日から、毎日のような所に連れていくてくれました。スタンプオード大学、遊園地やプール、サンフランシスコのベイ・ブリッジやゴールデン・ゲート……書き切れない程多くの場所で、改めてアメリカのスケールの大きさを感心しました。そして、彼らの心の広さも……。サンマテオにある日本庭園で25周年の記念式典があり、私たちも出席しました。そこで、た



これからの生活に生かせるように頑張りたいと思います。そして、いつか必ず彼らのところへ戻りたいと思います。最後にになりましたが、この素晴らしいチャンスにあたえてくれたすべての方に感謝したいと思っています。

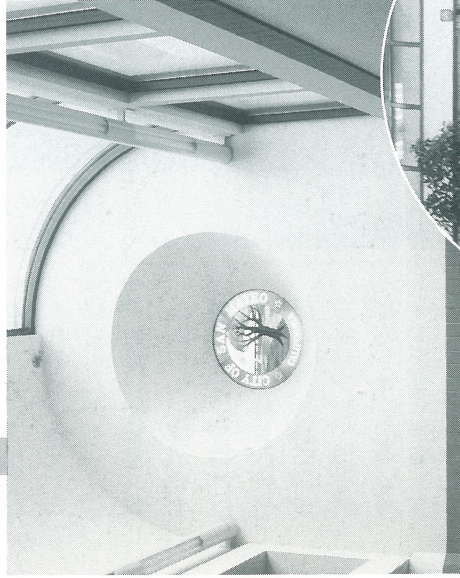
サンマテオ市訪問の スナップ



サンマテオ中央公園の日本庭園



日本庭園25周年記念の祝賀会



庁舎ホールの中に市章が



パウエル市長を囲んで



サンマテオ市庁舎

「国際ネットワークもよなか」 〈豊中国際交流連絡会〉 新しく発足

市内で活発な活動している国際交流団体はいくつもあります。ホストファミリー交流や、国際理解を深める講座の開催や交流事業、また、国内外の人権擁護の国際的な支援活動など、草の根活動が行われています。

これらの団体が集まって、今年2月24日に「国際ネットワークもよなか」が発足しました。お互いの思いや活動の中身は違っても、人と人の交流が平和な社会を築くという、国際交流の目的は一緒。そのために、意見や情報の交換、ともに活動していかうと、次の13団体が集まりました。

アムネスティ日本支部第10グループ、ESSCLUB、大阪北YMCA、考え行動する会テラ、国際交流グループNICE、国際交流の会あけぼの、国際交流の会とよなか、コスモハウス、千里英会話サロン、豊中エスペラント会、豊中市国際交流ボランティア、豊中サンマテオ姉妹都市協会、豊中青年会議所。

国際交流についての市民意識調査から

豊中市は1990年と91年の2回、国際交流の推進について、基礎資料として「豊中市の国際化に関する市民意識調査」を実施しましたが、その一部を紹介します。

市内でも最近外国人が増えているとの実感を持つ人は43%、「そう思わない」35%を越えています。また、外国語を「話せる」「少し話せる」市民は合わせても30%でした。そして、もし街角で外国語で道を尋ねられたら「言葉がわからなくても、できるかぎりのことをしてあげる」と答えた人が61%ありました。このことから、言葉を壁にするのではなくかけ橋にしようとの意識がみられます。

表紙の写真

1. 豊中市役所前に建つエルカミノパル。
2. 銘板（1994年にサンマテオ市民から豊中市民に、友情のしるしとして贈られました。）

増え/て/いる 豊中市に住む外国人

1990年頃から市内に住む外国人が増えてきたといわれています。5年前（1987年末）の外国人登録者数は4181人。国籍は韓国・朝鮮が最も多く、中国、アメリカ、イギリス、フィリピンへと続きます。今年5月末の登録者数は4858人で、韓国・朝鮮の次に中国、ブラジル、アメリカ、フィリピン、ペルーと続きます。この様に、最近では中国、南米、東南アジアの国の人々が急激に増えたことが特徴的といえます。



IN FRIENDSHIP
PRESENTED TO THE PEOPLE OF
TOYONAKA
FROM THE PEOPLE OF
SAN MATEO
1964